

View

No. 61
KOTOBUKI
PUBLIC SPACE
MAGAZINE

特集

学校のキャンパスを
街づくりとして考えてみる。

遊び ∞ 無限大

まっすぐ走れない、投げる、跳ぶができない
そうした子供が増えています。

体の動きのコントロール能力の低下とともに、
生活習慣病の増加も心配されています。

運動能力の低下は、

基本動作の未修得にあるといわれています。

だから、「ゲンキーズ」は“外遊び”を応援します。



コミュニティ遊具・フィットネス新カタログ発行!

ゲンキーズ

www.townscape-net.jp

K・O・T・O・B・U・K・I

株式会社コトブキ
www.kotobuki.co.jp

コトブキ総合窓口
TEL:0120-510213
FAX:0120-510216
E-mail:sales@kotobuki.co.jp

お問い合わせはコトブキ総合窓口、またはお近くの営業所まで

札幌支店	011-221-3496	東京支店	03-5280-5605	金沢営業所	076-247-7422
青森営業所	017-761-1371	教育環境営業室	03-5280-5380	中国・四国支店	082-297-4546
東北支店	022-284-1011	横浜支店	045-277-5111	高松営業所	087-869-8770
水戸営業所	029-225-8222	山梨事務所	0552-85-4420	九州支店	092-441-0763
栃木事務所	0287-45-1415	静岡営業所	054-205-7161	鹿児島営業所	099-258-2361
北関東支店	048-871-1030	名古屋支店	052-386-5067	沖縄営業所	098-863-7803
千葉営業所	043-204-3211	関西支店	06-6443-8833		



学校のキャンパスを 街づくりとして考えてみる。



キャンパスのサイン：外部からの訪問者、人口移動も多い大学のキャンパス。総合大学では数万人が集う、街づくりとして統一されたサイン計画が必要である。

大学キャンパスは、まさに、街づくりである。

大

学キャンパスのリニューアルが盛んです。都心への回帰、新キャンパスへの移転や古い施設の再整備、慢性的な教室不足、パソコン環境、新しい研究施設の必要性、憩いと交流の場の創出、食環境の充実、ユーティリティスペースの充実、交通アクセスなど、リニユーアルと一言にいっても実にその内容は様々で多岐に渡ります。大学は教育環境、研究施設として充

実させることはもちろんですが、最近では、学生へのサービスを充実させること、地域環境との共生、景観との調和など新しいテーマが加わっています。従来の大学の施設整備は、どちらかというと機能優先の考え方で進められてきましたが、現在の整備においては、学内の芝生広場やケヤキ並木を公共スペースとして開放す

る、歴史的な建造物を観光資源として活用する、災害時の避難場所になるなど、学外のコミュニティとの関わりを持った拡がりも見せています。実際に、大きなキャンパスでは数万人の学生、教職員、また、外部からの訪問者など、多くの人が往来しています。学生が快適で過ごしやすく、安全に生活できる場の提供、キャンパスの環境整備はまさに自治体の「街づくり」と連携した考え方が必要になっています。



右：早稲田大学 11 号館
左：早稲田大学 11 号館

多くの大学では、キャンパス整備に対する専門委員会を設けて、将来へのビジョンを具現化するためのマスタープランを立てプロジェクトとして進められています。特徴的な動きとしては、キャンパスの住民となる学生たちの声やアイデアを反映させるといふことです。「もっと学生目線で、更に幅広いサービスを」と、プロジェクトには学生にメンバーとして加わってもらい、

計画に反映させようとする活動が見られるようになって来ました。それは、具体的に「このスペースをこうしたい」という学校の方策に対して学生が意見するだけでなく、「飲食・物販機能の充実」「キャンパスの緑化」「自然緑地の活用」「交通アクセス整備」といった大枠での課題を、学生たちが自分達でリサーチして考えることで課題や策を具体的に考えるという活動などは、より実情に対応した解決が行なえる新しいアプローチといえます。まさに住民参加型のワークショップによる都市計画と似通った進め方だと言えます。

Featured Items 1
Kotobuki Public Magazine
View No.61

キ

キャンパスは、学生が人生の岐路を決めるべく大切な環境です。また、そのキャンパスづくりは学生や教職員、そして外部からの訪問者など「知」を求める人たちの生活空間をつくることです。キャンパスは地域交流のための都市広場としても機能します。そして、

情報発信の場として、学生たちの姿を社会に発信していく顔としての意味も持ちます。だからこそしっかりとした計画で進めていかなくてはなりません。携帯情報端末の発達によるICTへの対応やバリアフリー化など、キャンパス整備は公共性をもった対応が必要になってきています。また、周辺環境との調和、景観としてトータルな視点でのありかたも考えていかなければなりません。特にサインについては、多くのキャンパスでロゴ、ピクト、配置計画などの不統一による美観の問題、案内が不十分なことにより、わかりにくく、使いにくい例も多く見受けられます。コトブキは、ストリートファニチャーやサインの総合メーカーとして、数々の街づくりに参画してきました。そのような経験を活かして、ふぞろいなサインを、統一された環境へとリニューアルし、街づくりの視点で付加価値のある空間提案を行い、トータルな整備を心がけています。

キャンパスは、長い年月にわたって変化を続けています。学び舎は増設を繰り返し、都度の対応を行ってきました。総合的な環境整備のメンテナンスとその仕組み

は今後のキャンパス運営における課題といえます。飲食を目的としたユーティリティスペースのありかたも重要視されています。授業と授業の間の時間は、友人とのコミュニケーションの間であり、講義に集中するための大切なインターバルです。屋外のオープンスペースがどのように使われるのか、座るスペースは十分なのかなど、サービスとしてのテーブルや日よけ、お弁当やパソコンを広げられるスペースも必要になります。キャンパスによっては病院もあります。公開講座やセミナーのために訪れる来訪者もいます。そこに集うすべての人たちが快適に過ごせるような、空間提案はこれからも大学運営の重要な課題となっていくでしょう。



居心地のよいスペースとしてベンチやテーブルが用意されている。



右：青山学院大学 相模原キャンパス
左上：電気通信大学 調布キャンパス
左下：青山学院大学 相模原キャンパス





分煙の例：東京工科大学



青山学院大学：写真は喫煙スペースではありません。



慶應大学日吉キャンパスでは、屋外の喫煙スペースに雨よけシェルターを設置した。



関西大学：写真は喫煙スペースではありません。

約束され、具体的には、人が集まる場所の全面禁煙化、公共施設内にかかる形態の喫煙所も設けないことや、屋内の公共の場を禁煙とすることなどを求めています。健康増進法施行に伴う厚生労働省健康局の通知では「受動喫煙による健康への悪影響を排除するために」法で受動喫煙防止措置をとる努力義務を課すとしており、健康増進法も受動喫煙による健康への悪影響があることを前提に、施設管理者に受動喫煙防止対策を求めています。神奈川県では2010年に、全国の自治体で初となる「受動喫煙防止条例」が施行され、明確に禁煙、分煙すべき施設が定義されました。この条例の区分では、学校は第一種施設と規定され、大学の建物内部はすべて「禁煙」スペースとなり、喫煙スペースは屋外にしか設置できません。今、キャンパスの環境における喫煙スペースのありかたが問われています。

キャンパスの環境づくりにおいても、禁煙、分煙対策は考えていかなくてはなりません。室内が全面禁煙になっていく現在では、必然的に喫煙可能なスペースは屋外になります。雨の日のこと、メンテナンスなどにも考慮が必要です。また、判りやすく統一さ



神奈川県では受動喫煙防止条例が施行された。学校は第一種施設（禁煙）に分類されている。

吸うの？ 吸わないの？

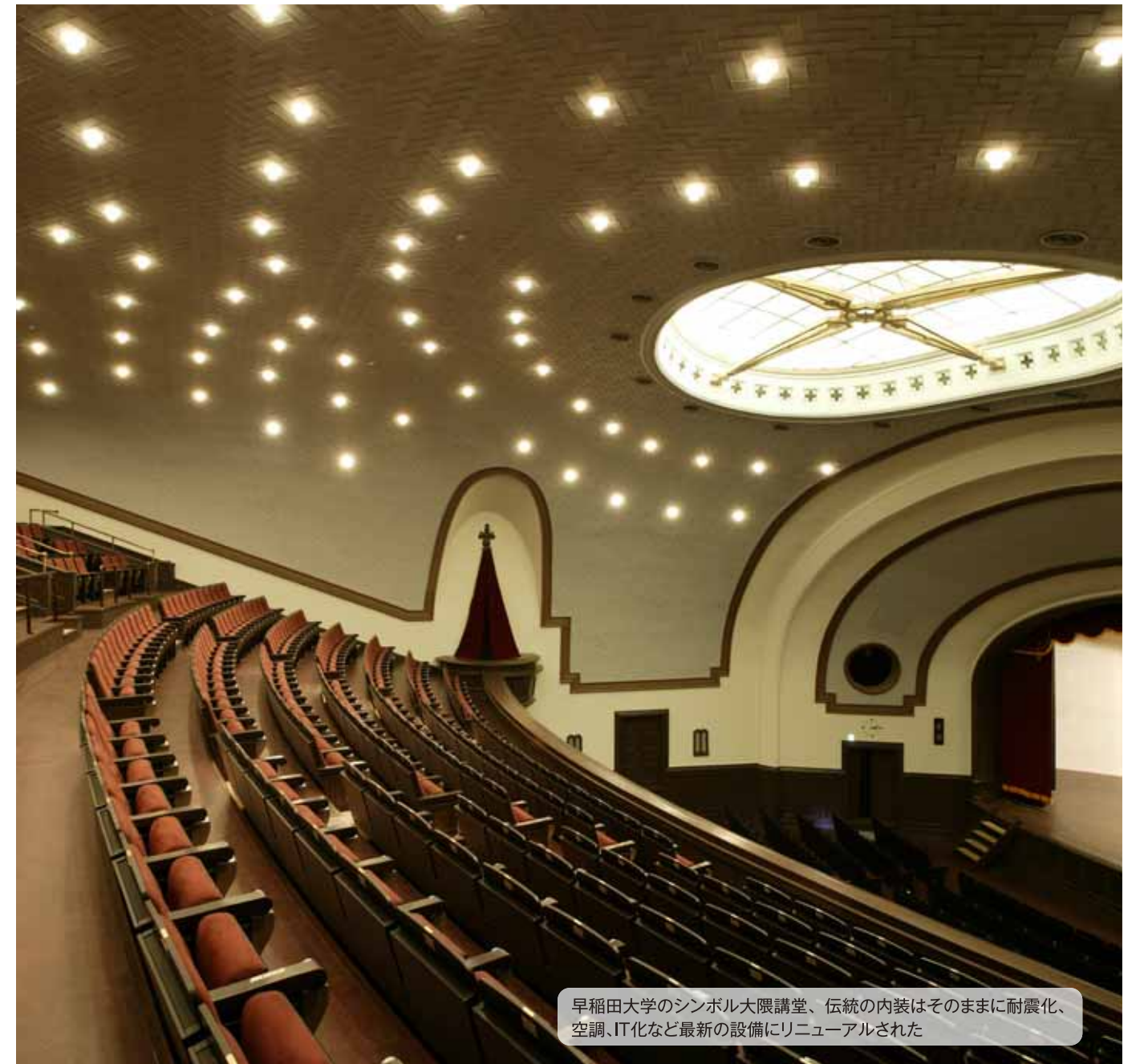
Featured Items 2
Kotobuki Public Magazine
View No.61

たばこの煙には二百種類以上の有害物質が含まれ、主流煙よりも副流煙（たばこの先から出る煙）に有害物質が多く含まれているといわれています。受動喫煙とは、たばこの先から立ち上る煙をはじめとする、漂うタバコの煙を吸入することです。この受動喫煙が、健康への悪影響が生じることが、様々な研究成果によって科学的に明らかになっています。

WHOのたばこの規制に関する世界保健機関枠組条約（たばこ規制枠組条約）では、受動喫煙の防止が各国の責務として定められています。この条約については、約160カ国が合意し、日本も批准しています。公共の場での受動喫煙防止対策を実施・促進することが

れたサイン標示を施し、マナー向上を図る必要もあります。更に進んで考えると、校内での分煙・禁煙活動を通じて、学校が禁煙に取り組み姿勢を社会に示すことで、環境強化、学校のブランド強化へ繋がって行くことでしょう。

1965年では、日本人男性の82%が喫煙者だったそうですが現在では36%程度まで減少しています。喫煙されない方々にとっては、あまり関心がない話題なのかもしれませんが、そういえば、昔は電車の中には灰皿が設置されていて、普通にタバコを吸っていました。今では考えられないですよね、レストランも禁煙、バーも禁煙、そしてキャンパスも、という時代になっていくことでしょう。



早稲田大学のシンボル大隈講堂、伝統の内装はそのままに耐震化、空調、IT化など最新の設備にリニューアルされた

いつまでも新しい。



早稲田大学
早稲田キャンパス
西早稲田キャンパス

自主独立の精神を持ち、時勢に左右されない豊かな人間性を持った「地球市民」の育成、進取の精神として学問の独立、学問の活用による科学的な教育や研究は、大隈重信の時代から育まれてきた教旨です。都の西北、早稲田の森では、研究内容の変化、学生の増加、パソコンやプロジェクターを使用する授業のスタイルが変化してきているなどの時代の要求もあり、老朽化した校舎の建て替えが行なわれています。景観や歴史上の意味から、残す建物と建て替える建

物の選別が行われ、早稲田の森の再開発が進行中です。大隈講堂や旧図書館などのある正門付近の建物は歴史的景観として残され、そこから離れるに従って建物が高層化、大型化されています。11号館は正門から見てキャンパスの奥の方、高機能化ゾーンにあります。さまざまな新しい教室のスタイル、ディスカッションやケース討議のための馬蹄形教室なども整備され、研究環境の高機能化が進んでいます。



統一カラーでコーディネートされている



シンプルで知性を感じるシャープなデザイン

街と共生する、 学びの庭。

片柳学園 東京工科大学 /
日本工学院 蒲田キャンパス



学校法人片柳学園は、東京工科大学、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校を有する学校法人です。大学と専門学校の垣根を越えたユニークなネットワークを展開しています。最先端の機材を

生まれ変わりました。セントラルプラザは花と緑のオープンスペースとなっていて、学生の憩いの場として、イベントやパフォーマンスを行ったり、また一般の方へ憩いの場としても開放されています。

用し4校が一体となって科学、芸術、インターネットやマルチメディアなどのメディア関連分野に貢献する優れた人材を育成しています。このたび、蒲田キャンパスが、ランドマークとなる新タワーを備えた、超未来キャンパスへと生まれ変わりました。セントラル



セントラルプラザ

探究心は、 さらに「知の冒険」へ。

東京大学 柏キャンパス



東京大学柏キャンパスは東京大学の三極構造に基づき、本郷、駒場のキャンパスとは異なる、学問体系の組み替えをも視野に置いた「知の冒険」を志向する最先端キャンパスです。新領域創成科学研究科、物性研究所、宇宙線研究所、大気海洋研究所、数物連携宇宙研究機構、人工物工学研究センター、空間情報科学研究センター、環境安全研究センターなど、最先端の科学研究施設の整備が進められています。また、柏キャンパスでは、東京大学の研究成果をわかりやすく紹介し、キャンパスへの理解を深めてもらうために一般公開が行なわれています。子供から大人まで楽しめる興味深い企画を通じて、最先端の科学技術に触れられます。



学び舎にも アウトドアカフェ。

電気通信大学 調布キャンパス



電気通信大学は学部を持つ国立大学の中で唯一、大学名に地名を含んでいません。これは、日本全国に開かれた大学を創ろうという精神に基づいています。そんな専門大学の外構には巨大なオープンカフェのように、ピクニックテーブルが多数レイアウトされています。仲間と楽しくお弁当を食べたり、パソコンを広げてレポートを作成したり、思い思いのスタイルでキャンパスライフを過ごせます。



キャンパスに 華をもたせて。

二松學舎大学 九段キャンパス



明治十年創立、夏目漱石も学んだ二松學舎大学。歴史と伝統ある九段のキャンパスが高層化してリニューアルしました。ヒロティにオープンカフェ風のピクニックテーブルがレイアウトされ、学生たちの憩いの空間として活用されています。最新の設備とネットワーク環境を整えた都心の学舎は、新しい世紀に向けての情報発信基地として、地域、世界との結びつきを深めながら、学生一人ひとりの可能性を最大限に引き出していきます。





英語教室



数学教室



芸術室



国語室

もっとも自由な、
生活の場、
学びの場。

鶴見大学附属
中学校・高等学校



「教育エリア・ホームベース型」
校舎が完成。この新校舎には、
教科ごとに専用の教室が設置さ
れています。つまり、その日の
カリキュラムにしたがって、生
徒たちが各教科の専用教室に移
動します。中高一貫教育のメリッ
トを最大化する「3ステージ」
制と併せて2コース/3ステー
ジ制によるユニークな教育が行
なわれています。吹き抜けを囲

むように、ガラス張りの教室が
配置されているのでとても開放
的です。近未来的な学校の雰囲
気を演出するサインは生徒たち
がホームベースから専用教室に
移動する、ウェイファインディ
ングの要素となっています。自
らが移動して授業に臨むことで
自学自習の力を育むための仕掛
けにサインも一役かっています。



ローラースライダー

ザイルブリッジ

大滝すべり

遊びは仕事です。

学校法人桐蔭学園 幼稚部



子どもたちが自らの体験として「生きる力」を養うための場の提供。桐蔭学園では幼稚部から大卒までの一貫した教育を通じて、子どもたちが「知」を確実に身につけるための様々な工夫と努力が行われています。この度幼

稚部の園庭に新しい複合遊具が登場しました。耐久性の高いアルミ支柱にリサイクル木材の構成で、斜面を効果的に利用したチャレンジ性の高い遊具です。自然と調和したデザインが子どもたちの冒険心をくすぐります。ローラーすべり台のロングスライダー、高分子スライダーによる大滝すべりなど面白いアイテムがふんだんに構成されています。



夢はもっと大きくなる。

青山学院 初等部



青山学院は、50年、100年後を見据えた21世紀の姿としてアカデミック・グラウンドデザインを定め、再開発が行なわれています。初等部の校舎の改築、及び周辺整備も学院全体のグラウンドデザインとして進められました。子どもたちが実際に描いた絵を組み込んだカラフルなサインは、ゾーン別にカラー

コーディネートされています。教室、廊下と空間がひとつづきになっているオープンスペースには、共同作業ができるテーブルとイスのセットを設置し、様々な目的に応じて組み換えができ、子どもたちの自由な発想を引き出しながら学習ができる環境となっています。

